

平成 23 年 3 月 14 日

各 位

日本農産工業株式会社

平成 23 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 23 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 23 年 1～3 月期に比較して、全国全畜種総平均トン当たり約 2,400 円値上げすることを決定致しました。尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 5 月限は ¥690～740/ブッシェルの激しい値動きになっています。とうもろこし相場は、原油高を背景としたエタノール向けが堅調であり、米国期末在庫水準は 5 %前後の歴史的な低水準であり、投機筋の買い意欲も強く、上昇傾向を続けています。

価格面では、大豆よりとうもろこしの栽培の方が有利ですが、91 百万エーカー（前年度 88.2 百万）以上の作付面積が確保されないと、期末在庫数量に余裕が生じない計算となります。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆期近相場は、中国等の堅調な需要に支えられて 5 月限は ¥1,400/ブッシェルの高値水準を維持しています。ブラジル・アルゼンチンの大豆豊作による価格の上昇抑制が期待されます。

シカゴ定期大豆粕期近相場は、大豆高から 1～3 月期間より \$20～30 高い \$370/ショートトン前後の取引です。4～6 月期間渡し条件の国内大豆粕価格は、1～3 月期間と比較すると約 2,000 円/トン上昇する見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃は、\$60 前後の取引です。昨年末の豪州での洪水の影響で石炭の出荷が停止され、一時的に輸送貨物が減少したことから運賃相場は下落しました。その後、荷動きの回復もあり、船運賃は上昇しています。

4. 外国為替

経済指標や雇用情勢の改善から米国景気回復は楽観的な見方が広がり、ドル安は脱しつつあります。中東・アフリカでの民衆デモによる混乱、原油高、資源バブル等により、ドル円相場は 81～84 円/ドルで一進一退の展開であり、直近では 83 円/ドル近辺での取引となっています。

（お問合せ先） 日本農産工業株式会社 飼料販売企画部 福岡（TEL 045-224-3704）